龍
爪

第５号
静岡大学
理学同窓会報
（第41号）
年１回発行　非売品

静岡大学
理学同窓会事務局
〒422-8529
静岡市駿河区大谷836
静岡大学理学部内
電話・FAXともに
(054) 238-3081
E-mail:
scialm@shizuoka.ac.jp
振替　00860-4-60479

# 理学部の現状と今後の展望

理学部長　山本　歩

学部長を務めます山本です。今年度が学部長として最終年度となりますが、これまでと同様、どうぞよろしくお願いいたします。

同窓会報への挨拶もこれが最後となるため、改めて理学部について考えたいと思います。近年、社会の急速な変化や学問の細分化、さらには大学の教育・研究への社会実装の期待が高まる中で、理学部の存在意義が問われています。理学部の本質は自然界の原理を解明し、知の基礎を築くことだと考えています。その原動力は「知りたい」という純粋な知の欲求に根差したもので、多くの場合、直接社会貢献を目指すものではありません。しかし現在では、大学にも実社会との関係をより強く求められ、理学部本来の姿との間にずれが生じています。

また、従来は数学・物理学・化学・生物学・地球科学といった専門分野で深く真理を探究することが求められていました。しかし気候変動、エネルギー問題、ＡＩ技術など複雑な課題に直面する現代では、分野の枠を超えた横断的な学問が必要とされています。こうした社会実装と分野横断型の教育・研究への要請にどう応えるかが、理学部の大きな課題となっています。では、そのために理学部の枠組みや教育・研究を大きく変える必要はあるのでしょうか？私は必ずしもそうとは思いません。真理の探究から生まれた「知」は、結果として社会の新たな可能性を開きます。歴史を振り返れば、社会実装を目的とせずに行った基礎研究が、大きな技術革新をもたらした例は枚挙にいとまがありません。ただし、社会問題についても常に意識し続けることは重要で、その姿勢こそが未来の社会実装につながると考えています。

さらに、分野横断型の研究も現行の枠組みの中でも十分可能だと考えています。以前、ノーベル物理学者のファインマン博士の自伝を読んだときに、「何にでも興味をもつ姿勢」に感心し、だからこそ大発見をできたのだと納得したことを覚えています。常に他分野への関心を持ち続ければ、自然に分野をまたぐ教育・研究が発展すると思います。反対に分野横断を重視しすぎることにより専門性が低下し、浅い教育・研究となることを危惧しています。

とはいえ、従来のままの体制でいいとも思いません。分野が固定していると、人の思考もその枠に囚われてしまいます。理学部でもこれまでの良さを維持しつつ、社会の要請に応えるべく、今年度から全ての分野に対応できる創造理学コース教員を配置しました。また、他学科の専門教育を受けるように「学科専門科目」も新設しました。これらにより、分野の垣根を超えるマインドを持つ学生が育つことを期待しています。

社会の要求に応えるためには、今後も専門性を失わず、社会を意識した教育・研究が必要です。その実現には同窓会の皆様のご支援が欠かせません。皆様のご活躍を祈念するとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 同窓会の未来をともに創るために

理学同窓会長　鈴木富喜

日頃より静岡大学理学同窓会の活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。同窓会は、卒業生・在学生・教職員をつなぐ大切な組織として歩みを続けておりますが、近年、最大の課題として「後継者不足」が顕著になっております。その背景には、同窓会活動が十分に活発でなく、若い世代が関わるきっかけを得にくいという構造的な問題があると考えております。

こうした状況を踏まえ、今年度は同窓会の原点に立ち返り、「参加したい」「関わりたい」と思っていただける活動づくりを重点方針として掲げました。まず在学生に対しては、「あなたのやりたいことを支援します。」という新たな学生支援企画を開始し、学びや挑戦を後押しする取り組みを進めております。学生の小さなアイデアや自主的な活動を形にすることで、理学部の活力向上につなげていきたいと考えております。

また卒業生の皆様に対しては、「あなたの交流活動・企画を応援します。」（仮題）として、学科単位の10名程度の会合から30名規模の学年会まで、自由な交流会の開催を積極的に支援する方針です。仲間との再会や世代を超えたつながりは、同窓会の大きな財産であり、こうした自主的な活動が広がることこそ、後継者育成の確かな土台になると確信しております。

なお、最近では、学科や学年単位でクラス会や同窓会が開催されているものの、本部がその情報を把握していないケースも多く耳にします。こうした活動は同窓会全体の活性化にとって大変貴重なものですので、開催のご予定や開催後のご報告を、ぜひ本部にもお寄せいただければ幸いです。会報やホームページで紹介することで、他の世代への刺激となり、交流の輪がさらに広がることを期待しております。

同窓会は、皆様一人ひとりの思いと行動によって支えられています。学生の未来を育み、卒業生の絆を深め、理学部の発展に寄与する組織として、より開かれた参加しやすい同窓会を目指してまいります。今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（なお、具体的な支援につきましては本部までお問い合わせください。）

# 理学部教育支援寄付にご協力ください

理学同窓会では、在学生がより快適で充実した学生生活を送れるよう、皆様からの理学部教育支援寄付を活用し、今年度も環境整備を進めてまいります。

２０２５年秋には、学生リフレッシュルームにおける光熱費対策としてのブラインド設置、Ａ棟１階出入口・談話スペース付近のWi-Fi設置工事を実施しました。

これらの取り組みは、ひとえに皆様からの温かいご支援の賜物です。今後も学生の学びと成長を支える活動を継続していく所存ですので、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（寄付金は１口３千円を基準としておりますが、金額につきましては皆様のお気持ちに応じて柔軟に承っております。複数口のご支援はもちろん、少額のご寄付も学生支援の大きな力となりますので、温かいご支援を賜れましたら幸いです。）

理学部Ａ棟１Ｆエントランスロビー

## 理学同窓会寄付講義・科学講演会等講師募集

大学院総合科学技術研究科の講義の一つとして、「生物科学の最前線」の中で、同窓生に寄付講義をお願いしています。平成7年度は5月1日に藤田正晴氏（内閣府内閣府食品安全委員会事務局）、6月19日に北川喜己氏（静岡県立松崎高等学校）からご講演していただきました。令和8年度も引き続き、企業や研究所、教育現場などで今何をしているのか、働く現場ではどのようなことを学ぶべきかなどおよそ60分から90分の講演をしていただく予定です。後輩のために先輩としての貴重な経験談をしてくださる方を募集しています。学科・経歴などは問いません。また、同窓会総会・支部会、科学講演会等においても講演を担当してくださる方を募集しています。

ご応募いただける方は、理学同窓会事務局または担当教員までご連絡ください。

静岡大学理学同窓会事務局　松浦
scialm@shizuoka.ac.jp　TEL/FAX 054-238-3081
令和8年担当教員　生物科学科　天野豊己

## 『静岡大学同窓生による　リレーエッセイ』原稿募集

『静岡大学同窓生によるリレーエッセイ』は、各同窓会から推薦された同窓生の皆様から、リレー形式によりご投稿いただいているもので、静岡大学ホームページ上に掲載されています。理学同窓会でも、毎年３人程度の方にお願いし、在学生・同窓生へのメッセージ、大学への期待や希望、近況報告など自由に語っていただいています。

投稿していただける方は、理学同窓会事務局までお問い合わせくださいますようお願いします。

なお、これまでのエッセイは大学のホームページ からご覧いただけます。
（https://wwp.shizuoka.ac.jp/essay/）

静岡大学
理学同窓会
ホームページ

## 2026年度　静岡大学理学同窓会総会・科学講演会のご案内

静岡地区静大祭・ホームカミングデーに合わせて、理学同窓会総会及び理学同窓会主催の科学講演会を開催いたします。
同窓生の多数のご参加をお待ちしております。

**【日　時】** 令和8年10月31日（土）（受付12時30分より）
**【会　場】** 理学部A棟2階大会議室（A209）理学同窓会総会　13時15分より
**【科学講演会】** 14時20分より

詳細は、後日あらためて事務局ホームページに掲載します。なお、同日に地学同窓会・講演会も開催する予定ですので総会等の開始時間等に変更が生ずる可能性があります。）

## 大学理学同窓会中部支部総会のご案内

**日　時**　令和8年6月13日（土）
午後1時から3時まで（予定）受付:午後0時30分～
**場　所**　名古屋大学東山キャンパス理学部1館 E101 室
※　久しぶりの総会を名古屋大学で開催します。
**内　容**　道林先生（現名古屋大学理学部教授）の講演のほか、名大キャンパスツアー（午後3時～）も予定しています。 家族の方の参加も歓迎します。
**参加費** 1,000円
申込み方法等、詳細はホームページでご案内します。
（問合せ）　静岡大学理学同窓会　scialm@shizuoka.ac.jp

## 2026年度 第11回 理学同窓会 東京支部総会
## 第14回 地学同窓会総会 開催のご案内

**【日　時】** 2026年6月27日（土）12:00～16:30開催予定
**【場　所】** アルカディア市ヶ谷　私学会館
〒102−0073　東京都千代田区九段北4丁目2−25
**【参加費】** 10,000円

お申し込み方法など詳細は、後日、理学同窓会事務局ホームページでご案内いたします。

---

# 静岡大学理学同窓会役員会議事録（会議の概要）

**１日　時**
令和７年10月18日
午前10時～12時

**２場　所**
静岡県男女共同参画センター「あざれあ」４階特別会議室

**３出席者**
会長、副会長、理事、中部支部長、東京支部長、同副支部長（10名）

**４議　事**

**(1)２０２５年度事業報告**

・会報・卒業研究抄録誌の発行や役員会、総会等については計画通り実施できたが、理学部教育支援事業として予定していたリフレッシュルームの改修や理学部ウェブサイトのリニューアルについては寄付金が目標金額に届いていないこと等の理由から支援できずおり、他の事業での活用も含めて理学部と協議している。

**(2)２０２５年度会計決算報告**

・収入の部では、一般会計（運営寄付金）に29万円程度、特別会計（理学教育支援寄付金）に27万円の寄付が寄せられた。また会費の納入率は向上した。

・支出の部では、会報の印刷費は紙面縮小により支出減が実現されたものの通信費（会報郵送費）は増加した。

（会計監査）

・会計監査を10月７日に実施し、適正に処理されている旨の報告がなされた。

**(3)２０２６年度事業予算について**

（収入の部）

前年度繰越金が増えているが、前年度未執行事業費が含まれている。

（支出の部）

・特別講座支援（同窓会寄付講義）については、集中講義における講師招聘の際の交通費支援を拡充するため支援金額をこれまでの実績を上回る額を予算化した。

・会報事業費は、これまで同様、印刷し送付する計画で予算化をした。一方で会員をグループ分けし、隔年で送付することで支出減を図った。

・支出削減によって得られた資金を同窓会交流活動支援金、学生交流活動支援金として活用する。

**(4)　地学同窓会会員を理学同窓会の会員とすることについて**

静岡大学教育学部卒の松本仁美氏を理学同窓会の会員とすることの推薦があった。同氏の理学同窓会との交流・活動歴、大学院での履修歴等から会員とすることに異義がなかった。今後は理学同窓会会員としてお迎えしたい。なお、会員に関する（会則第５条）については、一般会員、学生会員、特別会員、名誉会員等の区分けが適切なのか今後規約改正も視野に検討する。

以上のような協議、意見交換をして役員会は終了した。

議事録署名人（文責）
鈴木富喜
澤野敬一郎

**2025年度会計報告（R7決算）**（会計期間2024年10/1～2025年9/30）

| 一般会計 | 項　目 | 予算案(a) | 決算(b) | 増減(b)-(a) |
|---|---|---|---|---|
| 収入 | 前年度繰越金 | 2,738,635 | 2,738,635 | 0 |
|  | 年会費 | 4,290,000 | 4,770,000 | 480,000 |
|  | 受け取り利息 | 0 | 311 |  |
|  | 寄付金 | 200,000 | 290,460 | 90,460 |
|  | 雑収入 | 0 | 0 |  |
|  | その他 | 0 | 0 | 0 |
|  | 合計 | 7,228,635 | 7,799,406 | 570,771 |

|  | 項　目 | 予算案(a) | 決算(b) | 増減(a)-(b) |
|---|---|---|---|---|
| 支出 | 1 同窓会運営事業（会員交流 | 4,390,000 | 3,240,096 | 1,149,904 |
|  | 会報発行（印刷費） | 600,000 | 664,070 | -64,070 |
|  | 通信費（郵送料） | 1,200,000 | 1,204,858 | -4,858 |
|  | 御礼・督促状、その他（印刷費・郵送料） | 250,000 | 57,835 | 192,165 |
|  | 料金後納費用 | 20,000 | 12,985 | 7,015 |
|  | 総会・支部会・役員会（会議・交通費） | 430,000 | 202,100 | 227,900 |
|  | 支部活動運営費 | 350,000 | 280,000 | 70,000 |
|  | 送料手数料 | 50,000 | 52,317 | -2,317 |
|  | 事務用品（備品） | 100,000 | 68,400 | 31,600 |
|  | 事務用品、消耗品 | 60,000 | 9,328 | 50,672 |
|  | 事務手数料（役員・学生）謝金 | 900,000 | 663,203 | 236,797 |
|  | 慶弔費 | 20,000 | 0 | 20,000 |
|  | 次期周年事業準備金 | 410,000 | 0 | 410,000 |
|  | その他 | 0 | 25,000 | -25,000 |
|  | 2　理学部・学生支援事業 | 1,470,000 | 1,084,660 | 385,340 |
|  | 卒業研究抄録誌（印刷費 | 800,000 | 821,590 | -21,590 |
|  | 学生活動支援 | 50,000 | 0 | 50,000 |
|  | 卒業・入学式関連費 | 20,000 | 20,050 | -50 |
|  | 特別講座支援 | 400,000 | 43,020 | 356,980 |
|  | 理学部教育支援 | 200,000 | 200,000 | 0 |
|  | 次年度繰越金 | 1,368,635 | 3,474,650 | 2,106,015 |
|  | 合計 | 7,228,635 | 7,799,406 | 570,771 |

理学部教育支援会計（別会計）

|  | 項　目 | 予算案 | 決　算 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の部 | 前年度繰越金 | 610,320 | 610,320 |  |
|  | 一般会計より | 200,000 | 200,000 |  |
|  | 寄付金 | 300,000 | 270,000 |  |
|  | 合計 | 1,110,320 | 1,080,320 |  |

|  | 項　目 | 予算案 | 決　算 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 支出の部 | 留学生支援金 | 50,000 | 25,280 | 学生障害保険、4名 |
|  | 未来創成基金へ | 700,000 | 0 |  |
|  | その他の教育助成 | 100,000 | 0 |  |
|  | 振替手数料 | 5,000 | 0 |  |
|  | 次年度繰越金 | 255,320 | 1,055,040 |  |
|  | 合計 | 1,110,320 | 1,080,320 |  |

会計担当　二重野　哲
会計監査　赤星順一　清水幸洋

**2026年度会計予算（R8予算）**（会計期間2025年10/1～2026年9/30）

| 一般会計 | 項目 | 予算案 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 収入 | 前年度繰越金 | 3,474,650 |  |
|  | 終身会費 | 4,500,000 |  |
|  | 寄付金 | 200,000 |  |
|  | 雑収入(利息等) | 350 |  |
|  | 合計 | 8,175,000 |  |

|  | 項目 | 予算案 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 支出 | 1 同窓会運営事業（会員交流 | 4,230,000 |  |
|  | 印刷費（会報9,000部） | 650,000 | B４版４面、振込用紙、はがき、封筒 |
|  | 通信費(郵送料) | 900,000 | 会報封入作業、郵送費 |
|  | 印刷費（督促状・御礼関係、はがき、切手 | 100,000 | 御礼状、はがき、紙代 |
|  | 料金後納費用 | 20,000 | 連絡はがき 返信 |
|  | 会議費・交通費 | 430,000 | 総会・役員会・支部派遣・講師料、資料 |
|  | 支部活動運営費 | 350,000 | 東京支部、中部支部、数学支部 |
|  | **卒業生同窓会活動支援** | **100,000** | **新設** |
|  | 送金手数料 | 50,000 | 日本郵便 静岡銀行 |
|  | 事務用品（備品） | 50,000 |  |
|  | 事務用品（消耗品） | 50,000 | インク、紙など |
|  | 事務手数料（役員・学生）　謝金 | 900,000 | 謝金、アルバイト |
|  | 慶弔費 | 20,000 |  |
|  | 次期周年事業積立金 | 610,000 | 昨年度未執行分を含む |
|  | 2 理学部・学生支援事業 | 1,740,000 |  |
|  | 印刷費（卒業研究抄録誌 | 820,000 | 印刷部数325部 |
|  | **学生交流活動支援** | **200,000** | **助成制度新設** |
|  | 卒業・入学関連費 | 20,000 | 撮影費と生花 |
|  | 特別講座支援 | 400,000 | 寄付講座/集中講義補助 |
|  | 理学部教育支援（別会計 | 300,000 |  |
|  | 次年度繰越し金（予備費 | 2,205,000 |  |
|  | **支出額合計** | 8,175,000 |  |

令和8年度別会計　　理学部教育支援会計

|  | 項　目 | 予算案(a) | 備考 |
|---|---|---|---|
| 収入 | 前年度繰越金 | 1,055,040 |  |
|  | 一般会計より | 300,000 |  |
|  | 寄付金 | 200,000 |  |
|  | 雑収入（利息等） | 300 |  |
|  | 合計 | 1,555,340 |  |
| 支出 | ABP留学生支援（※） | 50,000 | 学生傷害保険のみ |
|  | 未来創成基金(理学部) | 1,250,000 | リフレッシュルームのブラインド等 |
|  | その他教育助成費 | 100,000 |  |
|  | 振替手数料 | 1,000 |  |
|  | 次年度繰越金（予備費） | 154,340 |  |
|  | 合計 | 1,555,340 |  |

## 理学部ニュース

**2025年度**

|  |  |
|---|---|
| 3/7 | グローバル共創科学部の斉藤俊貴先生の共著論文がNature Astronomyに掲載 |
| 3/27‾7/24 | サイエンスカフェin静岡　第40シーズン開催 |
| 4/20 | 生物科学科の丑丸敬史先生がラジオ番組に出演 |
| 4/18 | 化学科の守谷研究室に所属する鈴木魁星さんが電気化学会第92回大会で優秀学生講演賞を受賞 |
| 5/23 | 生物科学科の鈴木研究室に所属する村松万里さんの論文がThe Anatomical Record の Top viewed articleの1つに認定 |
| 5/10 | 春季オープンキャンパスを開催 |
| 6/27 | 生物科学科の丑丸敬史先生が関係する「家康公CRAFT」の徳川宗家献上について静岡新聞に掲載 |
| 8/7 | 地球科学科の三井研究室に所属する菊地祐次さんが駿河トラフのスロースリップに関する研究で日本測地学会「瀬戸賞」を受賞 |
| 9/17 | 地球科学科の平内研究室に所属する楠本美弥乃さんが日本地球惑星科学連合2025年大会で学生優秀発表賞を受賞 |
| 9/17 | 数学科卒業生の青木悠史郎さんが2025年度日本数学会で建部賢弘奨励賞を受賞 |
| 9/25-1/22 | サイエンスカフェin静岡　第41シーズン開催 |
| 10/17 | 化学科の近田研究室に所属する大久保洸佑さんがＩＣＦＲＭ-22で「Young Researcher Excellent Poster Award」を受賞 |
| 10/31 | 生物科学科の丑丸敬史先生の日本酒作りの活動が朝日新聞に掲載 |
| 11/1 | キャンパスフェスタ in 静岡理学部イベント2025を実施<br>理学同窓会ホームカミングデイ＆科学講演会を実施<br>理学同窓会総会開催 |
| 11/10 | 地球科学科の平内研究室に所属する窪田虎太朗さんが日本地質学会 第132年学術大会で学生優秀発表賞を受賞 |
| 11/16 | 生物科学科の丑丸敬史先生が高校生対象実験講座ひらめき☆ときめきサイエンスを開講 |
| 12/1 | 物理学科の廣部大地先生が第14回エヌエフ基金研究開発奨励賞を受賞 |
| 12/2 | 物理学科卒業生の新藤元気さんがプロット制作に携わったドラマが2026年1月から放映 |
| 12/9 | 地球科学科卒業生の渡邊悠樹さんが日本地震学会2025年度秋季大会で学生優秀発表賞を受賞 |
| 12/10 | 生物科学科の醍醐陽介さんが日本動物学会中部支部大会(静岡大会)において最優秀発表賞を受賞 |
| 12/22 | 化学科の大矢研究室に所属する星野柚香さんが第57回日本原子力学会中部支部研究発表会において最優秀発表賞を受賞 |
| 2026 1/9 | 後藤寛貴先生が S-wave『Sunday Nature』に出演しました |
| 1/10～12 | 「核融合について学び・発信するフュージョンエネルギースクール事業」(静岡大学主催実行委員長大矢恭久先生)が九州大学応用力学研究所を開催。 |
| 2/7 | 学校推薦型・総合型選抜入学試験 |
| 2/25 | 一般選抜(前期日程入学試験) |
| 3/12 | 一般選抜(後期日程入学試験) |

# 理学同窓会総会　地学同窓会総会　＆科学講演会

令和７年11月１日（土）にキャンパスフェスタin静岡と同時開催にて、理学同窓会総会、地学同窓会、科学講演会が理学部Ａ棟２階大会議室にて開催されました。

**１　特別ミニ講演会**
（12時30分～13時00分）
講師　竹田宏紀氏（静岡大学大学院自然科学系教育部博士課程２年）
演題「ＡＩと数学と教育」

理学同窓会事務局のお手伝いをしてくださっている学生にミニ講演をしていただいた。22名（役員、学生、理学部の教員等）が参加された。

**２　第13回地学同窓会総会**
（13時05分～13時20分）

志田原幹事、松本幹事より資料に基づき、地学同窓会講演会開催状況の報告と5月30日に東京で開催された地学同窓会での追悼講演「杉村新の生涯と業績」の講演要旨についての紹介がなされた。

**３　理学同窓会総会・科学講演会**

**(1)　総会**
（13時20分～14時10分）

役員会（10月18日）議事録の報告をもとに、令和７年度事業報告・会計報告（監査報告）、令和８年度事業計画・会計予算案を審議した。その結果、各議案は承認された。また、地学同窓会幹事である松本氏を理学同窓会の会員として迎えることが承認された。また、理学同窓会東京支部・中部支部から活動報告がなされた。次年度は中部支部でも総会を開催する予定であることが報告された。

なお、山本理学部長をはじめとして各学科の同窓会連絡員の先生方にもご参加いただくとともにご意見をいただいた。（参加者は24名）

**(2)　科学講演会（地学講演会）**（14時14分～15時45分）
演題　「オストラコーダ（貝型虫）の自然史研究」
講師　塚越　哲氏（静岡大学理学部教授）

静岡大学理学同窓会
ホームカミングデイ
&
科学講演会
●静岡大学理学同窓会　科学講演会●
★日時：2025年11月1日（土）★
オストラコーダ（貝形虫）の自然史研究
★地学同窓会 総会＠ホームカミングデイ★
★理学同窓会 総会★

※講演終了後、希望者に静大キャンパスミュージアム見学ツアー（15時50分～）を実施し、各展示物についてご案内いただいた。講演会には31名、キャンパスミュージアム見学には13名が参加された。

※17時30分から、アスティ静岡内の居酒屋にて懇親会が開かれ楽しいひと時を共有することができた。懇親会には15名の方々にお集まりいただいた。

## 事務局だより

２０２５年の同窓会の大きな活動として、理学部棟内のブラインド新調やWi-Fi機器の設置を行い、同窓生からの寄付を大学内の設備改善という形で、快適な学生生活のために役立てさせていただきました。多大なる支援をいただき、ありがとうございました。同窓会運営には、引き続き現役の学生が積極的に参加してくれています。これからも同窓会は、卒業生と大学をつなぐ存在でありたいと思っています。（松浦）

○静岡大学のこと、理学部のことなどさまざまな面に触れながら事務局のお手伝いを楽しく務めています。（学生さんから）

# 退任教員

## 一枚の絵

**塚越　哲**

私が研究職を得たのは、今から36年前の1990年4月、東京大学総合研究資料館（現博物館）の助手になった時である。私に辞令を下賜されたのは、解剖学者で、現在では多くの著作で有名な養老孟司館長（当時）であった。私に辞令を手渡しされながら「あなた、これから何をやりたいの？」と聞かれたので、私は「分類学をやりたいです」と答えた。すると養老さんは「分類かぁ、オレも分類やりたかったんだけど、食っていけないと思って医者になっちゃったんだ」と軽い苦笑いを浮かべられた。他愛もないやり取りだったが、このやりとりは今でも鮮明によみがえる。養老先生が取り組みたくても見送られた分類学を何の憚りもなく研究できることに大きな喜びと責任を感じた。そして研究者としての第一歩を踏み出すまで私を育ててくださった静岡大学と東京大学の恩師には心底感謝した。

養老先生の初期の著作に「形を読む」がある。その中に「ホロゲニー（全発生）」の図というのが掲載されている。一枚の絵の中に、個体発生と系統発生（進化）が同時に表現されている。私は自身の研究を進めるにあたり、常にこの2つの発生を意識してきたが、そのバックグラウンドにはいつもこの絵があった。個体発生はリングのようにグルグルと回って繰り返すのだが、そのリングの重なりを縦にたどると進化になっている。この絵は私の授業でもたびたび取り上げたので、受講してくれた卒業生は、心当たりがあるかもしれない。私は自身の分類学を進めながら、このホロゲニーの概念を取り入れると、分類学が立体的に、ダイナミックになると考えていた。私の分類学はホロゲニーの研究だったとも思っている。

さて、私の研究者としての個体発生は終了の時が来た。私の研究は個体発生のように、同じところをグルグルと回っていた気がする。しかし個体発生は単に同じところをグルグルと回ってはいない。目には見えないが、長い時間をかけてほんの少し変化してゆく、私の研究もそんな変化の一部として、学問の進化に寄与していたらと思う次第である。

塚越先生をはじめ2026年3月末には他に次の先生方が退任されます。ご都合のよい機会がありましたら、改めて会報等にご挨拶をお願いしたいと存じます。

数学科　横山　美佐子先生
物理学科　嘉規香織先生
放射科学教育研究センター
矢永　誠人　先生

# 新任教員

## 創造理学・物理コース

**Rico Pole**

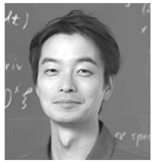
2012年より日本を拠点に研究を行い、2017年に沖縄科学技術大学院大学（OIST）にて博士を取得しました。その後、東京や東北で研究員を務め、2025年4月より静岡大学理学部の講師として着任しました。

私の研究は、多数の電子の相互作用から新しい性質が生まれる「創発」現象の解明を目指すものです。主に数値シミュレーションを用いて、量子スピン液体や量子液晶、トポロジカル物質、超伝導体などに代表される特異な量子状態を研究しています。

創造理学コースおよび理学専攻物理学コースの教員として、多様な背景を持つ学生が英語による国際的な研究環境に自信を持って挑戦できる力を育てていきたいと思います。

## 物理学科

**難波　亮**



2026年4月着任の理学部物理学科の講師です。研究分野は宇宙論を専門としていて、素粒子物理学や重力理論を駆使して宇宙の成り立ちや行く末を理論的に解き明かそうとしています。

生まれは岡山ですが、大学大学院はネブラスカからミネソタ（ともにアメリカ）、その後研究員として千葉、モントリオール（カナダ）、上海（中国）、埼玉と、それまで縁もゆかりもなかった土地を転々と移り住んできて、今度もまた思いがけず静岡の地に腰を落ち着ることになりました。

これも自分らしいなと思いつつ、山も海もあり食べ物もお酒も美味しいと聞くこの地での新しい経験、そして何より静岡大学で学生たちとともに宇宙の研究に取り組めることに胸を躍らせています。

2026年4月より数学科（創造理学コース）Parente Francesco　先生が着任されます。次年度の会報でご挨拶を掲載する予定です。

### 2026年度同窓会連絡委員

| | |
|---|---|
| 数学科 | 木村杏子 |
| 物理学科 | 清水康弘 |
| 化学科 | 松本剛昭 |
| 生物科学科 | 天野豊己 |
| 地球科学科 | LEGRAND Julien |
| 放射科学教育推進センター | 大矢恭久 |

# 理学部各学科活動

## 数学科　活動報告

**木村杏子**

今年度は、4月1日より四ッ谷直仁准教授（専門は幾何学）が加わり、11名の教員にての教育体制でした。一方、今年度末に横山美佐子講師が定年退職されます。

昨年度に引き続き、藤枝市役所（情報デジタル推進課）と協働した数学科特別講義「データサイエンスによる地域課題探究」を、藤枝市と本学との包括連携協定のもと開講しました。今年度は「藤枝市図書館の課題解決」をテーマに、数学科・物理学科・生物科学科の学生8名がデータ分析や機械学習を用いて利用実態を調査し、改善に向けた提案を市担当者へ報告しました。また2月には藤枝東高校2年生を対象に、地域課題解決の事例を通して「数理データサイエンスの魅力」を紹介しました。

さて、今年度の数学教室の大きな話題として、青木悠史郎氏の2025年度日本数学会賞建部賢弘奨励賞の受賞が挙げられます。日本数学会建部賢弘賞は若くして優秀な業績を挙げる等、数学研究の活性化に寄与している日本数学会会員を顕彰し、その研究を奨励することを目的としています。特別賞と奨励賞があり、奨励賞は30歳以下の日本数学会員が対象で、毎年5名程度が受賞します。青木氏の受賞題目は、「Martin の公理の部分公理群と梯子系の色付けの一様化の関係」で、2025年9月17日に授賞式が行われました。青木氏は2019年3月に理学部数学科を卒業し、2021年3月に大学院総合科学研究科理学専攻数学コースを修了、さらに2024年3月に創造科学技術大学院を修了しました（当時の指導教員は依岡輝幸准教授です）。現在は、東京工業高等専門学校で助教をされています。青木氏の益々のご活躍を期待しております。

## 物理学科　活動報告

**清水康弘**

2025年度、新任教員として理学部創造理学コース兼任のRico Pohle（リコポーレ）さんを講師として迎えました。ドイツ出身の新進気鋭の物性理論研究者で、今後の活躍が期待されます。一方で、長年に渡り教育研究に活躍されてきた原子核物理理論の嘉規香織准教授が定年退職し、2026年度に新たなメンバーを迎える予定です。

サイエンスカフェでは、物理学科の野村肇宏講師が一年を通して店長を務め、地域の皆様方との交流を深めました。物理学コースから3名の教員（嶋田大介准教授、斎藤俊貴准教授、清水）が最近の研究（高温超伝導体の超伝導機構、超巨大電波望遠鏡で探る隠された宇宙の姿、磁力・磁石の「量子」）についてそれぞれ講演しました。詳しくはサイエンスカフェおよび静大TVサイト等をご参照ください。

高校生との交流の一環として、オープンキャンパス（春、夏、冬の3回）、サイエンスラボ（8月）、高大連携講座（8月）、静岡県内外高校への出前講義などを実施し、今年も多くの参加がありました。日本物理学会においても近年議論されていますが、物理好きの若者を育てるためのアウトリーチ活動の重要性が増しています。高校側からの要望は増加傾向にあるものの、学部・学科として常に危機感をもって積極的にアウトリーチに努めていく必要がありますので、今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 化学科　活動報告

**近藤　満**

令和7年度は、コロナ禍の影響を感じることがほとんどなくなった一方で、自然災害の深刻さを強く実感させられる一年となった。夏には連日猛暑が続き、6～8月の月平均気温は多くの地点で観測史上最高を記録した。静岡市においても8月の平均気温が29℃を超え、うだるような暑い日が続いた。また、大雨や台風による浸水被害が複数県で報告された。さらに、青森県東方沖を震源とする強い地震や、トカラ列島周辺での群発地震、日本各地での山林火災、熊による人身被害が相次いで発生した年でもあった。静岡県内においても、9月には台風の接近と通過に伴う激しい風雨が観測され、同月には牧之原市で竜巻が発生し、甚大な被害をもたらした。

化学科では、理学部放射科学分野における研究と教育を長年にわたり支えてこられた矢永誠人教授が、この3月をもってご退職を迎えられた。亜鉛欠乏が哺乳類に及ぼす影響に関する研究に加え、東日本大震災に伴う原子力発電所事故の際に問題となった土壌中の放射性物質汚染およびその除去に関する研究など、社会的要請に応える研究を展開されてきた。また、放射科学の実験棟については、来年度より非密封放射性物質を取り扱わない施設へと整備されることが決定しており、その煩雑な手続きを矢永先生がご担当され、多忙な日々を送られた。

化学科の卒業生は、技術職、研究職、教員、公務員など多岐にわたる分野で活躍の場を広げている。年度より、卒業生による寄付講義活動が縮小されたのは、ある意味残念なことであるが、同窓会の活動を通じて、在校生と卒業生とのつながりが今後さらに強まることを期待したい。

## 生物科学科　活動報告

**天野豊己**

2025年度は、テニュアトラック助教の後藤寛貴教員が正式な助教として本学科に加入し、生物科学科の教員14名、並びに修士課程生物科学コースの教員18名で教育・研究を行いました。研究室には学部3年生から博士課程3年生までの学生（留学生を含む）が所属し、研究に従事しています。今年度も学術的活動や地域貢献などに励み、論文発表（Scientific reports・Proceedings of the National Academy of Sciences・Journal of Animal Ecology・Communications Biology・Zoological Science等）や学会発表（日本動物学会大会、日本分子生物学会年会等）、静岡ライフサイエンスシンポジウムの開催、サイエンスカフェin静岡での講演などを行いました。また、日本動物学会中部支部大会が、徳元俊伸教員を大会会長に静岡大学で開催されました。詳細は「公益社団法人日本動物学会　令和七年度中部支部大会（静岡大会）開催報告」をご覧ください。日本動物学会中部支部大会では、生物科学コースの学生が最優秀発表賞を受賞しました。プレスリリースでは、粟井光一郎教員および村上博紀教員、伊藤舜教員、道羅英夫教員、徳元俊伸教員、後藤寛貴教員による3件の計7件が報告されました。地域貢献活動においても、丑丸敬史教員による「公開実験講座　ひらめき☆ときめきサイエンス」が開催されました。理学部同窓会寄付講義が、生物科学科の「生物科学の最前線」の中で開催されるようになり、藤田正晴先生（内閣府食品安全委員会事務局）と北川喜己先生（静岡県立松崎高等学校）にお話し頂きました。2025年3月には、学部学生44名が卒業し、修士課程の学生19名が修了する予定です。来年度も、教員一同、在学生と共に前進をして行けるよう努めます。

## 地球科学科　活動報告

**鈴木　雄太郎**

2025年度の地球科学科は、北村晃寿学科長のもと、新入生47名が加わって始まりました。サイエンスカフェでは、第183話として4月に平内健一教員が「なぜ地球にだけプレートテクトニクスが存在するのか」の講演を行いました。今年度は受賞やプレスリリースが相次ぎ、年度当初には久保篤史教員、ルグラン・ジュリアン教員が静岡大学若手重点教員に選出されました。受賞については、三井雄太研究室所属の菊池祐二さんの駿河トラフのスロースリップに関する研究での日本測地学会「瀬戸賞」、さらに同研究室所属の渡邊悠樹さんの日本地質学会2025年度秋期大会での「学生優秀発表賞」がありました。プレスリリースは、4月に北村教員による「熱海市伊豆山地区土砂災害の盛土と土石流堆積物に含まれる軟質泥岩礫」が、6月にルグラン教員による「むかわ町初の新生代鳥類化石の発見～絶滅鳥類プロトプテルム科化石の報告～」が行われました。また、1999年度から本学科で教鞭をとられた塚越哲教員が今年度で退職されます。学士84名、修士24名、博士8名の延べ114名の学生さんがご指導頂きました。

---

### サイエンスカフェ in静岡

#### 第42シーズン（令和8年前期）のお知らせ

場所　B-nest 静岡市産学交流センター　6階
時間　18：00～19：30

**第192話　3月26日**
**「細胞を包む・隔てる膜の話」**
生物科学科助教　村上博紀

**第193話　4月23日**
**「駿河湾からの贈りものメタン！」**
地球科学科教授　木村浩之

**第194話　5月28日**
**「ミクロの世界のものづくり」**
教育学部　助教　坂部将仁

**第195話　6月25日**
**「金が小さくなると変わる！？ナノサイズの世界で輝く金クラスター」**
化学科　講師　仁科直子

**第196話　7月23日「サッカーと科学」**
グローバル共創科学部　講師　平嶋裕輔

HP：https://www.sci.shizuoka.ac.jp/science-cafe
お問合せ　理学部総務係学務係　TEL：054-238-3080

# 各賞表彰

＜大学生・大学院生部門＞

| | |
|---|---|
| **＜最優秀口頭発表賞＞**<br>（2件） | **「サカサクラゲポリプ切断体からの再生機構の解明」**<br>○醍醐 陽介（静岡大学・総合技術研究科），小池 亨（静岡大学学術院・グローバル共創科学領域）<br>**「ミナミメダカの雄の繁殖行動を制御する脳内バソトシンの発現動態」**<br>○若園 彩花（岐阜大学・連農），加川 尚（近畿大学・理工），古屋 康則（岐阜大学・教育） |
| **最優秀ポスター発表賞**<br>（1件） | **「地理的単為生殖昆虫・オオシロカゲロウの両性・単為生殖系統間での発現遺伝子の比較解析から探る単為生殖関連遺伝子」**<br>○野堀 貴仁（信州大院・理），竹中 將起（筑波大・生命環境），東城 幸治（信州大・理） |
| **優秀口頭発表賞**<br>（3件） | **「陸上産卵性両生類アイフィンガーガエル胚のアンモニア解毒能の早期獲得」**<br>○中山 聡（富山大院・理工），中町 智哉，松田 恒平，今野 紀文（富山大・学術研究・理学系）<br>**「コクワガタにおける性決定遺伝子doublesexの卵巣発生と卵吸収への機能」**<br>○山内 花音（静岡大院・総合科学技術研究科），千頭 康彦，後藤 寛貴（静岡大学・理・生物科学）<br>**「淡水進出時期の異なるイトヨ集団における浸透圧調節能の比較」**<br>○阿部 滉大，鈴木 義己（静岡大学・理・生物科学），神部 飛雄（国立遺伝学研究所），森 誠一（岐阜協立大学），日下部 誠（静岡大学・理・創造理学） |
| **優秀ポスター発表賞**<br>（1件） | **「ネバダオオシロアリの兵隊型生殖虫における遺伝子発現プロファイル解析」**<br>○水上 粲（富山大学・理・生物），藤原 克斗（産総研・BPRC），前川 清人（富山大学・学術・理） |

＜高校生・高専生部門＞

| | |
|---|---|
| **最優秀口頭発表賞**<br>（1件） | **「静岡県内で提唱されるトウヨシノボリ“池沼型”の分類」**<br>○山村 悌公（静岡北高等学校） |
| **最優秀ポスター発表賞**<br>（1件） | **「鳴き声から読み解くコジュケイのコミュニケーション」**<br>○水谷 架士羽，丹羽 悠（浜松学芸中学校・高等学校） |
| **優秀口頭発表賞**<br>（1件） | **「温暖化による駿河湾の深海生物への影響調査」**<br>○藤江 優光，吉澤 勇希，（教）大津 孝佳（沼津高専） |
| **優秀ポスター発表賞**<br>（4件） | **「シーラカンスの環境に適応した進化と温暖化による駿河湾での生息の可能性」**<br>○森 莉緒菜（島田第二中），○鷲見 陽向（中津川市立坂本小），○中野 颯紀（富士中），（教）大津 孝佳（沼津高専）<br>**「環境DNAを用いた能登地域の河川の魚類相の調査（3）～学校間ネットワークによる石川県全域への調査の拡大～」**<br>○干場 真歩，和田 浩輝，田口 一生，酒本 一輝，干場 智貴，関軒 康太郎，中村 陸人，駒井 結翔，谷口 豪紀，林 真衣，久田 唯心（七尾高等学校）<br>**「トンボの翅から考える生物多様性評価」**<br>○山本 栞帆，水谷 架士羽，大森 奏，阿知波 ハル，丸尾 泰雅，山内 希一，黒田 立輝（浜松学芸中学校・高等学校）<br>**「オオグソクムシの行動特性を活かした新たな立体展示方法の提案」**<br>○中島 樹，○滝 優真，○渡部 結衣，○佐藤 優月，○廣田 絢音，○佐野 綾香，○佐藤 千馬，眞野 水綺，（教）大津 孝佳（沼津高専） |

### 公益社団法人日本動物学会

# 令和七年度 中部支部大会（静岡大会）開催報告

日本動物学会中部支部大会を、令和7年12月6日から7日にかけて、静岡大学静岡キャンパス理学部B棟講義室を中心とした会場にて開催いたしました。本年の大会は、対面での参加を中心とし、高校生の口頭発表のみをオンラインと対面両方としました。大学生・大学院生の部門では22題の口頭発表、16題のポスター発表、高校生・高専生の部門では8題の口頭発表（6題のオンライン発表含む）、29題のポスター発表が行われました。参加者は、現地会場が233名、オンラインが30名となり支部会としては大変盛況な内容となりました。

公開シンポジウムとしては「生殖細胞形成の仕組み－魚類の研究から解ったこと」と題し、小林　亨先生（静岡県立大学）、今井　裕紀子先生（埼玉大学）、駿河谷　諒平先生（北海道大学）の3名の先生方にご講演をいただきました。生命の原点とも称される生殖細胞の研究における尽きることの無い課題に挑戦する研究が今後も継続し、発展することを期待します。また、今年度は事前予告をして一般参加者も参加できる懇親会を6日の夜に企画しました。当日参加や高校生の参加者も含めOB、OGも集まり約90名の参加者が親睦を深め大いに盛り上がりました。

私が静岡大学学部4年生時に同じB棟講義室で動物学会中部支部が開催され、今回は自身が大会長として支部会を運営できたことは大いなる喜びでした。現在の中部地区の支部長は名古屋大学の阿部秀樹先生も静岡大学理学部生物学科出身のOBであり、彼と大会を運営できたこともまた喜びでした。また、生物学科出身のOBの高校教諭の皆様からの演題登録があったことも今回の盛り上がりの理由でした。今後も静岡大学理学部生物科学科が内外との結びつきを大事に継続発展することを願います。

2025年1月27日
大会実行委員長
徳元俊伸

# 理学同窓会東京支部・地学同窓会の活動報告

理学同窓会東京支部・地学同窓会の2024年10月～2025年9月の活動を報告する。

1　理学同窓会東京支部・地学同窓会幹事会を6回、日大文理学部会議室ほかで、理学同窓会東京支部・地学同窓会総会等の準備および開催後の反省会などを行った。

2　第11回地学同窓会講演会および理学同窓会本部総会で支部活動報告を、2024年11月2日（土）に静岡大学理学部大会議室で実施した。講演は科学講演会と合同で、静岡大学理学部教授木村浩之氏により「静岡県の地層とエネルギー資源～温泉メタンと微生物群衆を活用した分散型エネルギー生産システム～」であった。

3　第10回理学同窓会東京支部・第12回地学同窓会総会・講演会・懇親会を、2025年5月31日（土）にアルカディア（東京都千代田区）にて開催した。理学同窓会の講演は、野牧秀隆氏（地球科学科2000年卒）により「潜水船を用いた深海調査とそれを応用した深海底生分解性プラスチック分解試験」で、地学同窓会の講演は、藤岡換太郎氏（理学部地学履修コース1971年卒）により「杉村新の生涯と業績」であった。

4　その他の活動として、2025年5月24日（土）に浜松工業会東京支部総会、6月14日（土）に岳陵会東京支部総会、また6月28日（土）に農学部同窓会東日本支部総会に参加した。